

〔首都圏における栄養系バーベナの生育特性の解明〕

栄養系バーベナの生育特性の解明（受託研究）

岡澤立夫・吉岡孝行

（生産技術科）

【要 約】 ‘タピアン’ シリーズは基部の分枝の発生に優れ、無摘心栽培でも充分商品性がある。その中でも ‘タピアン バイオレット’ は開花数が多く、株の締りがよい。また、 ‘花手毬 立性ローズ’ や ‘スーパーベナ レッド’ も開花数が多く、観賞性が高い。

【目 的】

栄養系バーベナは、うどんこ病に強く、高温条件下でも栽培しやすいなどの利点があるが、これまで都内における生育特性について調べられていない。そこで、様々な品種を比較試験することで、都内生産に向く品種を明らかにする。

【方 法】

9 cm ポット苗を5月16日に8号輪鉢に定植した。品種は ‘花手毬、タピアン、ツカーナ、オブセッション、スーパーベナ’ の4シリーズ計13品種を供試した。追肥は、5月26日から液肥（商品名：ビガーライフV）を1週間に1回500倍で施用した。ピンチは、8月23日に鉢の外周に沿って実施した。生育調査は開花数、株張り、株高について6月13日、7月5日、8月22日、9月27日の4回行った。

【成果の概要】

- 1) ‘タピアン’ シリーズおよび ‘花手毬 立性ローズ’ は、定植3ヵ月後には側枝が鉢全体を被覆したが、その他の品種では中心部の分枝が少なく、間隙が多く見られた（図1）。
- 2) ‘タピアン’ シリーズと ‘花手毬 立性ローズ’ はうどんこ病に強かった（データ略）。
- 3) ‘花手毬 スカーレット’ は最も生育が旺盛で、節間が伸び徒長した。また、 ‘スーパーベナ レッド’ や ‘タピアン ピンク’ も徒長する傾向にあった（図2）。
- 4) 開花数は ‘花手毬’ シリーズで少なく、 ‘タピアン’ シリーズは100輪以上と多かった。 ‘タピアン’ シリーズ以外の品種の中では、 ‘花手毬 立性ローズ’ と ‘スーパーベナ レッド’ が40輪以上と多かった（図3）。
- 5) 開花数は8月よりも9月で減少したが、ピンチはほとんどの品種で、開花数の減少率を抑えた。特に、 ‘花手毬 立性ローズ’ および ‘ツカーナ スカーレット’ で効果が大きかった。逆に ‘タピアン’ シリーズではピンチにより開花数の減少率が高まり、この傾向は ‘タピアン 立性ライトブルー’ で顕著であった。これは、 ‘タピアン 立性ライトブルー’ は、中心部での開花が少なかったためと考えられた（図4）。
- 6) まとめ： ‘タピアン’ シリーズでは、 ‘タピアン バイオレット’ が最も開花数が多く、株がよく締まる。また、 ‘花手毬 立性ローズ’ および ‘スーパーベナ レッド’ は開花数が多く、観賞性が高い。特に、 ‘花手毬 立性ローズ’ は、従来の品種にはない中心部のボリュームに優れ新規性がある。ピンチ栽培により開花数の大幅な低下が見られたため、 ‘タピアン’ シリーズは、ピンチの方法、実施時期を更に検討する必要がある。



左: '花手鞠 バイオレット'
右: 'タピアンラベンダー'

図1 定植3か月後の生育状況

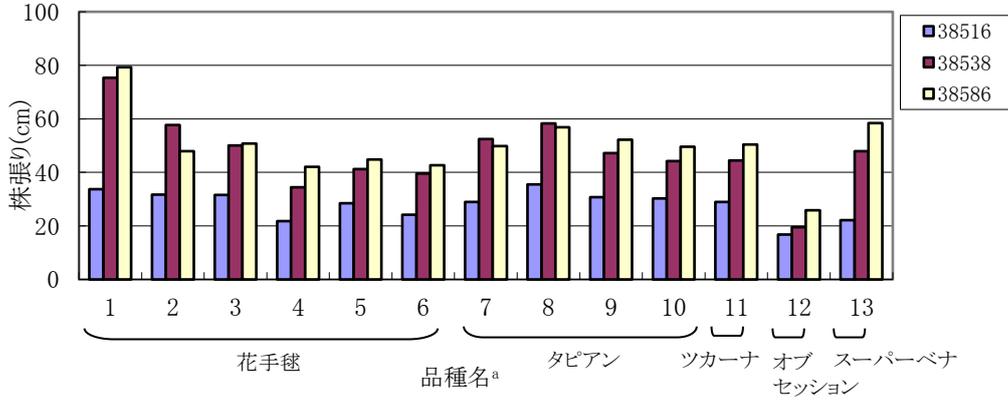


図2 株張りの経時変化

a) 1 花手鞠 スカーレット, 2 花手鞠 コーラルピンク, 3 花手鞠 バイオレット, 4 花手鞠 ホワイト, 5 花手鞠 ブライトローズ, 6 花手鞠 立性ローズ, 7 タピアン バイオレット, 8 タピアンピンク, 9 タピアンラベンダー, 10 タピアン立性ライトブルー, 11 ツカーナ スカーレット, 12 オブセッション スカーレット, 13 スーパーベナレッド
1~10:サントリー, 11:ハクサン, 12:シンジェンタ, 13:サカタ (以下同じ)

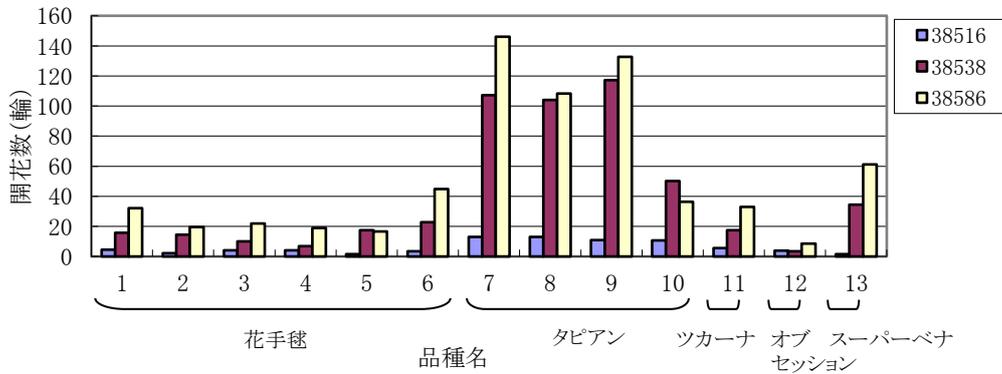


図3 開花数の経時変化

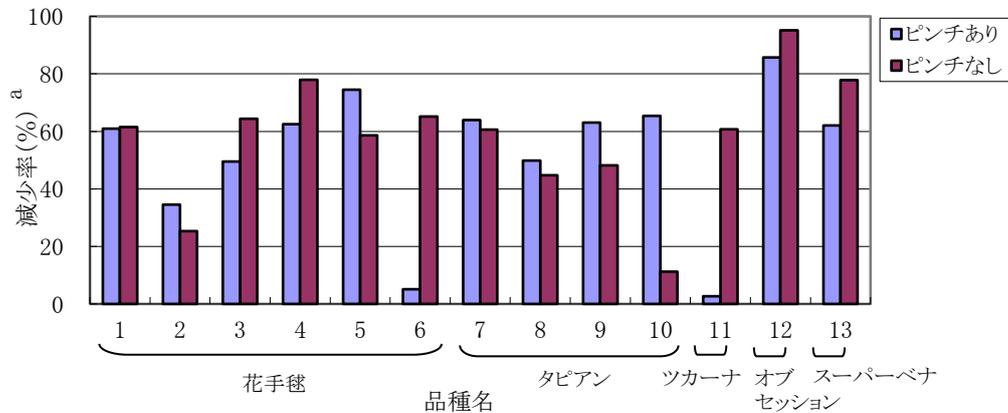


図4 ピンチの有無が開花数に与える影響

a) 8月22日から9月27日にかけての開花数の減少率